

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の社是、経営理念を基本に捉え、ホームの目標を持って実践に繋げている。	法人の社是については事務所に掲示すると共にユニット会議の席上唱和している。ホームの指針についてはタイムレコーダーの上に掲示し共有に努めている。また、「うがい、手洗いをしっかりとし感染症に気をつけホームの周り歩きましょう」という10月の月別目標は日々の申し送り時に徹底を図っている。職員は社是、ホームの指針の持つ意味を良く理解し日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さんにご協力いただき、近隣の皆様と交流をすすめている。地域行やイベントに参加したり、ホームの行事に参加いただいたり、地域の皆様との交流の機会を持っている。	区費を納め積極的に地域行事に参加し交流を深め地域の一員として活動している。ホームの玄関前の広々とした駐車場が大門神社の秋祭りの休息所となり利用者と共に神輿や踊りを楽しみ交流の時を楽しんでいる。開設以来保育園児や数々のボランティアの受け入れ等、地域の皆様との交流に力を入れて来たが、春先よりの「新型コロナウイルス」の影響ですべての活動の自粛状態が続いている。「新型コロナウイルス」収束後にはまた積極的に再開をする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事へ地域の皆様に参加していただいて、ご入居の皆様と交流し、支援の様子などを見ていただき、認知症の方の理解や支援方法を伝えていけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況・活動・取り組み状況などの報告、意見交換して、サービスの向上に活かしている。	家族代表、区長、民生委員、市長寿課職員、「内科、歯科」の協定医、訪問看護師、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。利用者状況・活動の報告等を行い、合わせて出席者より積極的な意見を頂きサービスの向上に活かしている。会議後には家族会を開き協力医より「認知症につて」等の話も頂いている。現状、会議が開けない状況が続いているがホームの状況については家族、参加メンバーに対し書面にてお知らせしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者への相談、報告やアドバイスをいただき、連携をとりながら取り組んでいる。	市長寿課とは利用者や入居状況等、様々な事柄に付いて情報交換を行っている。市の介護相談員の来訪が3ヶ月に1回あり、利用者や交流の時を持ち楽しみにされている。現在、新型コロナウイルスの影響で中断されているが収束後には再開予定である。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行い、立ち会われる家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、ユニット会議の話し合いやマニュアルを確認しながら、身体拘束への理解を深め共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は車の通りの多い所に面しており安全確保のため施錠している。外出傾向の強い利用者があるが話をしながら外を散歩し対応している。施設内での所在確認をきめ細かく行い安全の確保に繋げている。転倒リスクのある利用者が三分の一弱あり、家族と相談の上センサーマットを使用している。ユニット会議の席上身体拘束、虐待防止の勉強会を行い意識を高め取り組んでいる。	

ニチイケアセンター塩尻・たんぼぼユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議ユニット会議の話し合いやマニュアルを確認しながら、虐待について理解し、虐待が見過ごされることがなく相談できる環境であるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で勉強会を持っている。現在、成年後見制度を利用されている入居者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込み時から十分な説明に心がけている。契約・解約時には不安や疑問点を尋ね、入居者様・ご家族様が納得して契約を締結・解約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様に入居者様の様子をお伝えするよう心がけ、ご家族様からお話を聞く機会を多く持つよう努めている。また、面会時など、意見・要望を伝え易い関係・環境になるよう努め、運営に反映させている。	三分の二強の利用者は意思表示の出来る状況であり日々の状況を把握し要望を受け止めるよう努めている。意思表示の難しい三分の一弱の利用者については体や表情の変化を感じ取り、いつもと違うところを受け止め要望に沿えるようにしている。家族の来訪については新型コロナウイルス前は毎日見える方から週1～2回見える方まで多かったが、現在は新型コロナウイルスの影響で自粛が続き「リモート」「窓越し」での面会となっており、管理者より1ヶ月の状況を手書きの手紙として、日々の様子も写真に収め家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見・提案に耳を傾けるよう努め、ホーム会議・ユニット会議においても意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	月1回ユニット会議を行い、カンファレンス、勉強会、介護支援の向上に向けた「トイレ誘導」「車いすの使用について」などの話し合いを行い、意思統一を図っている。人事考課制度があり常勤職員については半年毎に管理者による個人面談が行われ評価に繋げている。非常勤職員についてもキャリアアップ制度があり、勤務日数に応じ段階毎に自己評価を行い、管理者が評価と個人面談を行いテストを受け評価に繋げている。年1回職員のストレスチェックが実施されメンタルヘルスにも気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とコミュニケーションに努め、良い点、改善点などその場で伝えられるよう心がけている。キャリアアップ受験を勧めている。面談やホーム会議・ユニット会議を通し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会への参加を促し、ホーム会議での勉強会を持っている。チームワークを通じて、ケアの実践や力量による課題にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・講習会へ参加し、同業者との交流の機会を持ち、情報を交換し、より良いサービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のご本人の生活の様子や環境を把握し、ゆっくりとご本人とコミュニケーションが取れるよう心がけ、ご本人の安心に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や申し込み時から不安や要望などをゆっくり伺うよう心がけ、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや面談時から、ご本人やご家族を含めた状況や要望の把握に努め、福祉用具や、外出支援などの他のサービスの提案、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いに気づき、思いに添えるよう努め、一緒に考えたり活動したりと、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族ともに入居されて良かったと思っただけのようなサービスを目指し、ご家族へのこまめな連絡とご意見をお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅での生活と変わらずいつでも親戚や友人、知り合いの方など面会、外出を行えるよう、環境作りに努めている。	友人、知人、親戚の来訪があり利用者も楽しみにされているが、現在は「新型コロナウイルス」の影響で自粛状態が続いている。収束後にはまた案内を行い来訪受け入れを行う予定である。半数弱の利用者はホームの電話にて家族と連絡を取られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム会議やユニット会議などを通じて、入居者様同士の関係を把握し共有し、互いに良い関係を築けるよう手助けや配慮して支えられるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、来所された時に話しをしたり、入院先のケースワーカーと連携をとったり、いつでも相談していただけるような関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに気づいていけるようコミュニケーションに努め、ユニット会議でご本人の要望、思いなど共有し話し合っている。	1対1で話をするを大切に、支援されることに遠慮がちな利用者に対しては居室で解るまで噛み砕いて優しく話をしながら意向を聞くように心掛けている。朝の洋服選びは季節に合わせ何種類か提案して選んで頂いている。また、飲み物もいくつか提案して選んで頂いている。合わせて変わった行動が見受けられた時にはLINEを用いすぐ状況を共有し、日々の気づいた事柄についてはスタッフノートに記録し申し送り時に確認し利用者の意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の話しや活動の様子などを通じ、センター方式シートを用いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録、アセスメントシートから、情報を共有している。変化があった時は休みのスタッフに連絡している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で具体的なケア場面に反映できるように話し合っており職員全員で関わっている。	全職員で全利用者の事をきめ細かく把握しユニット会議の席上職員間で意見交換をしモニタリングを行い、家族からお聞きした希望も加味し、計画作成担当者がプラン作成を行い利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。基本的に3ヶ月に1回の見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時見直しを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など、介護記録に記入し、職員間の申し送りノートを使用し、入居者様の変更事項や連絡事項など共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況にも柔軟に対応できるように、職員間の意見交換を大事にしている。勉強会や話し合いの場を持ち、より良いサービスに繋がるよう努めている。		

ニチイケアセンター塩尻・たんぼぼユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。地域や近の皆様にも恵まれて積極的に交流を図っており、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協定医の往診が月1回あり、医師とホームの信頼関係ができています。ご家族とこまめに連絡をとり連携をとっている。専門医などのかかりつけ医は、希望で受診継続させており、ご家族と連携をとっている。	ほとんどの利用者はホーム協定医の月1回の往診で対応している。運営推進会議にも出席されている医師なので利用者一人ひとりのこともよく理解されており連携を取りながら万全な医療体制が取られている。合わせて週1回水曜日に契約の訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理に当たると共に協定医との連携も取りオンコール対応である。歯科については必要に応じ協定医の受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護で情報の交換を行ない、健康、医療に関する相談や指導をいただいている。日頃の介護に活かし、適切な受診や看護が受けられるように支援している。緊急時も相談や対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のMSWと連携をとっている。入院先に訪問し現状を把握するとともに情報交換を行い、退院に向けての対応などスムーズに進むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の思いを大切に、主治医・訪問看護師とともに、話し合いを繰り返している。ご家族に協力のもと、ホームでできることをお伝えしながら、ご本人・ご家族・医師・看護師とともに方針を共有して、チームで取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた法人としての指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期、「食事をとる事が難しい状態」に到った時には主治医に見て頂き、家族、管理者、ケアマネジャーで話し合いを持ち、家族が主治医に出向き状況の説明を受け、主治医判断の上、訪問看護師と医療契約を結び看取り支援に取り組んでいる。開設以来7名の看取りを行い家族より感謝の言葉を頂いている。また、看取り後には振り返りの時を持つと共に訪問看護師による看取り研修を行い利用者に寄り添う支援に心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議やユニット会議で事例検討や、緊急時の対応について確認し、勉強会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や近所の皆様の参加をいただき、避難訓練・初期消火訓練を行なっている。区長さん、民生委員さんや、地域との協力体制を築いている。	年2回、火災と地震を想定した防災訓練を行っている。火災想定では台所からの出火を特定し消防署員の指導の下、区長、民生委員、近隣の方など、5名の方の協力を得て利用者全員外へ移動して避難訓練を行っている。地震想定では利用者全員布団をかぶってテーブルの下へもぐり1分間じっとする訓練を行っている。緊急対応マニュアルも整備されており、携帯電話を使つての緊急連絡網の確認訓練も行っている。備蓄は「水」「おかゆ」「缶詰め」「乾パン」等、3日分が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しプライバシーを守る事はいつも根底にあるよう繰り返し職員に働きかけ、そのような言葉かけや反応ができるよう努めている。	言葉遣いには特に気配りし命令口調にならないよう徹底している。トイレ介助は丁寧な声掛けを行い入浴介助も本人の様子を見ながら希望に合わせ誘うようにしている。呼び方は希望を聞き、基本的には苗字に「さん」付けでお呼びし、時には親しみを込め「方言」を交えながら話している。また、入室の際にはノックと声掛けを忘れないよう心掛けている。年1回は接遇の勉強会を行い利用者の「尊厳」を守るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表し易いように、また、自己決定ができるような、ご本人に合った言葉かけや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペース、思いを大切に、希望にそった時間を過ごせるよう支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のその人らしさを大切に、思いに気づき、身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは毎日の日課になってお願いしている。食事が楽しみになるよう心がけ、季節の食材や行事に合ったものを取り入れている。	ほとんどの利用者は自力で食事が出来る状況である。献立は職員が冷蔵庫の中の食材を確認し調理し、1日のうち「肉」「魚」を用いるよう心掛けている。敬老会は「赤飯」、正月は「おせち」、雛祭りは「おはぎ」等、1年を通し行事に合わせて季節の料理を楽しむよう努めている。利用者は「テーブル拭き」「食器拭き」等のお手伝いに参加している。また、家族と外食に出掛ける方も数名いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を毎回記録し、日々の介護に活かし、その日の体調にも合わせた食事を提供している。食事・水分が摂れない方やその機会が増えており、工夫しながら少しでも心がけている。		

ニチイケアセンター塩尻・たんぼぼユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、適切な口腔ケアが行なえるようユニット会議などで話し合っている。ご本人ができることはしていただいている。協定歯科医による歯科診断や相談ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を把握し、ご本人の思いに添い、その方にとって適切な排泄支援が行えるよう日々の介護の中やカンファレンス内で話し合いを行い、職員間で情報を共有し、自立に向けた支援に努めている。	半数の利用者が自立しており、他の利用者は介助が必要となっているが、全利用者トイレでの排泄に心掛けている。排泄表を用い一人ひとりのパターンを掴みそれぞれのパターンに合わせ、また、尿意のない方にも排泄を促しトイレでの排泄に繋げている。1日の水分摂取目標を1,000ccに置き、お茶、スポーツドリンク等を摂り排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協定医や訪問看護師より、アドバイスや指示をいただきながら、入居者様の個別のカンファレンスを行い、排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に沿った時間に入浴できるよう、前もって入浴者様に相談してから入浴にお誘いしている。	全利用者が何らかの介助を必要としている。週2回入浴を行い、夏場は状況により3回入浴することもある。入浴拒否の方もいるが誘い方を変えたり時間を変えたりして対応している。季節により「菖蒲湯」「ゆず湯」等も楽しんでいる。家族と温泉に出掛ける方も数名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活習慣を大事にして安心して気持ちよく休めるよう、支援している。主治医、協定医とも連携をとり、相談している。夜間のこまめな見回り・見守りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援について、皆で事例検討、再確認して取り組んでいる。薬の作用、副作用の理解、症状の変化の確認など、全職員が共有していけるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメント時の聞き取りから、その方の役割、趣味、嗜好などの把握に努め、入居後も継続していけるようまた、新たな楽しみを見つけにいけるよう支援している。		

ニチイケアセンター塩尻・たんぼぼユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で外出支援の意識をたかめ、ご家族にもご協力をいただきながら、できるだけ外出の機会を持つよう、努めている。	外出時、自力歩行の方とシルバーカー・杖使用の方がそれぞれ三分の一強おり、残りの方が車いす使用という状況である。日常的には新型コロナウイルスの感染予防をしながらホームの周りを散歩している。年間の行事計画があり春のお花見から地域のお祭り、市の行事見物、花火見物等が計画されているが今年には新型コロナウイルスの影響ですべてが中止に追い込まれ寂しい年を過ごしている。一日も早い収束が待たれ、収束後は計画に沿い気分転換も兼ね外出をする予定であるという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは基本的に事務所で預かりしているが、ご本人の希望に沿った買い物などができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を尊重し、ご家族や知人と個人の携帯電話でお話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快に思われない、また安全に過ごしていただけるよう、環境設備をすともにも、心地よい生活空間になるよう、会議などでも話し合っている。季節感を取り入れた共同制作作品など、居心地良い環境作りに心がけている。	玄関を入るとハロウインの飾りが迎えてくれ、陽当たりも良く明るいホール兼食堂は掃除が行き届き清潔感が漂い利用者の寛ぎのスペースとなっている。壁にはハロウインの飾りがホール一杯に飾られ季節感が感じられる。合わせて塗り絵、貼り絵等の利用者の作品も飾られ、日々の生活の様子を窺うことができる。また、庭には家庭菜園用の畑や花壇も設けられ、元気な利用者の活動の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の様子を把握しながら席の位置や環境作りの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や大事なぬいぐるみ、写真などを活かし、ご本人、ご家族と相談して、快適な空間作りを意識している。	クローゼットが完備された各居室は整理整頓が行き届き、エアコンによる空調管理も施され快適な生活空間となっている。持ち込みは家族と相談し、使い慣れた家具、テレビ等がレイアウトされ、居室には好きなスイーツ等も置かれ自由な生活の場となっている。また、家族、特に孫やひ孫の写真や自分の製作した作品に囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の「できること」「わかること」を職員が把握し、残存能力を活かす支援ができるよう、努めている。		